

アマノミクスとじえじえじえ改革

平成25年10月29日

岩手県知事 達増拓也

1. 復興支援作品としての『あまちゃん』

- (1) 3. 11直後から始まっていた準備
- (2) 周到に集められたスタッフ、キャスト
- (3) 要所要所に込められた真剣な思い

2. 『あまちゃん』の主題

- (1) 三代の絆：老、壮、青の三世代が力を合わせれば成功する
- (2) 場の力と時代の力：地理的背景と歴史的背景を自分のものにするとう成功する
- (3) プロでもしろうとでもない「あまちゃん」だから良い：プロは、家族より仕事を優先させたり、組織の論理で暴走したり、非人間的になるところが良くない
- (4) 楽しいからやる、やりたいからやる、好きだからやる：「ダサいくらいなんだよ、我慢しろよ」
- (5) 人間、不完全でもよい：安部ちゃんにプロポーズの言葉が言えない大吉でも幸せになれる

3. 『あまちゃん』の歴史観

- (1) 80年代は「地方の時代」になるはずだったがそうならなかった
- (2) 80年代は暴走と挫折 or 屈折の時代
- (3) 80年代の「熱い思い」には現在を変え、未来を切り拓くような可能性がある
- (4) 地方重視と人間性重視で80年代をやり直そう
- (5) 東日本大震災を見据え、復興に取り組むことが、80年代のやり直しにつながる

4. アマノミクス

- (1) 復興のための「内需拡大型の経済構造改革」として、「地域資源の発掘・磨き上げ」（地元で潜る）を基本にして、観光振興、再生可能エネルギー振興を含む産業振興、地域振興を進める
- (2) ネットの活用が重要

(3) 「好きであること」を基盤にする「愛好経済」

5. じえじえじえ改革

(1) 復興と改革

- (ア) 復興の進捗状況の公表や復興ロードマップの作成のような「情報公開」
- (イ) 意識調査等を参考にしながら復興計画を年度ごとに見直す「政策評価」
- (ウ) 企業、団体、個人など多様な主体と連携する「新しい公共」
- (エ) ムダを排し最大の効果を得る「財政規律」と「定員管理」
- (オ) 地方にとって使い勝手の良い財源の確保、地方の権限を強化するような用地手続きの簡素化などの「分権改革」
- (カ) 用地手続きの簡素化、マンパワー不足に対する人的支援は「国の危機管理体制の強化」という改革でもある
- (キ) 行政改革に社会の改革という要素も加わるが、「情報化」と「国際化」も、復興のための改革
- (ク) さらに、経済の改革という要素も加え、復興のための「内需拡大型の経済構造改革」として、「地域資源の発掘・磨き上げ」を基本にして、観光振興、再生可能エネルギー振興を含む産業振興、地域振興を進める（アマノミクス）
- (ケ) I L C（国際リニアコライダー）は、復興の象徴であると同時に、社会と経済の改革の象徴。

(2) プロ意識を「あまちゃん」意識で変容させる

- (ア) プロとしても「初心（初々しかったころの感覚、志）忘るるべからず」
- (イ) プロの論理に人間性を加味
- (ウ) プロである自分と別に、「あまちゃん」の自分を確保

(終)